

NIE活動を通じた「生きる力の育成」 ～全教育活動を通して、生徒一人ひとりが自らの 「生き方・あり方」を問い続けられる指導はどうあ ったらよいか～

長野市立東部中学校 吉池 光則

I はじめに

2年次となった新聞活用教育研究。配達をお願いした日から、契約期間が終わるまで、新聞は東部中学校に毎日配達されました。6月から、8月の一カ月間を休みとして12月末までの6カ月間、記事を直接的に活用したり、記事を基に教材化を試みたりと、全職員によって様々な実践が行なわれてきました。昨年一年次研究段階で新聞活用の履触を得られた先生方にとっては、実社会に今ある問題を捉えた記事で「道徳」授業を行なったり、社説記事、投書記事に対する自分の考え方を明らかにさせる「進路・生き方」学習を深められたり、新聞を読む時間を意図的に確保する事で、活字を読む事、記事を読んで考える事、要点をまとめる事など一段と活用の度合いも深まり、いわば自然体での活用がなされたようにも思います。2年間で多くの実践が行なわれ、意義ある活用がなされました。以下に2年目の実践の概要を報告いたします。

II 新聞活用の環境設定

- 1 多様な新聞の様子を知り、活用の方策を探るために、8銘柄を一カ月に一部ずつ6カ月間購読。「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「日本経済新聞」「産経新聞」「信濃毎日新聞」「長野日報」「中日新聞」の8紙を6月1日から配達開始、8月の一カ月間をお休みし、12月31日までの6カ月間、各一部ずつ購読させていただきました。昨年製作し設置していただいた8紙分の新聞受けに配達していただきました。
- 2 職員がまず教材研究・検討できるように、職員室に配置する。また生徒の活用については学級当番が学級日誌を取りに来た際に、時事的な話題を「新聞」から得られるよう、学級体制として可能な限りとってもらうなど、活用の可能性を探るべく再スタート。以下活用の具体手順。
 - ①NIE新聞受けより職員室へ(日直当番職員)
 - ②職員室後方の大テーブル上へ一面を表として8紙重ねずに配置(日直当番職員)一日半職員室保管。
 - ③各学級日直当番は7時55分から8時10分までの15分間に職員室を訪ねる。そこで新聞を一読し時事的な話題をピックアップする(担当生徒の興味関心事でよい)。ピックアップ記事の発表枠を各学級朝の会の進行次第の一項目に加えていただき、1分程度で日直当番が紹介する。(※学級での活用法の一例として提案。)
 - ④日直は必要に応じて当該記事をコピーする。発表使用後は、コピー記事は画用紙(再生紙裏面でもよい)にはり、引用新聞名、日付けを欄外にメモし、学級掲示板にはる。この掲示物は2週間程度掲示しておく。職員室コピー機を使用する。
 - ⑤昼休みに当日図書当番の図書委員は職員室を訪ね、図書館へ前日の新聞8紙を移動する。予め新聞閲覧コーナーを設置し、昼休み、放課後の閲覧を可能とするとともに、前日分を管理する。
 - ⑥図書館移動後の必要記事のコピーは、図書館使用のきまりに準ずる。
 - ⑦各新聞バック・ナンバーはデータベースとしての検索使用も考えられるので、バック・ナンバー閲覧可能な棚を準備し2か月分は蓄積保管する。

* 図書館司書、司書教諭、情報教育担当、全校研究、学級活動、生徒会、各教科会等いろいろな係り分担が機能して、「ものとしての新聞」の管理にあたりました。

* 東部中ブックマーク <http://pub.bookmark.ne.jp/toubu/> に「新聞を読もう」各新聞のWebリンクを用意していただきました。アサヒ・コム朝日新聞 / MSN-Mainichi 毎日新聞 / 信濃毎日新聞 (Shinano Mainichi Shimbun) / NIKKEI NET 日本経済新聞 / Sankei Web 産経新聞 / ◇長野日報ホームページ◇ / 中日新聞ホームページ / YOMIURI ON-LINE 読売新聞

III 研究実践の概要

新たな学習指導要領に基づく教育課程が実施されて4年が経過した。本校の各教科会では、生徒の実態とつづける力を基に新聞活用の教材研究を試み、授業の中での活用を目指してきた。実践者数43名と報告した通り、全教育活動に全職員が一丸となって様々な分掌の指導場面、教科・領域の学習指導場面での活用を試みた。その結果、学級活動(12)、道徳(6)、国語(5)、理科(4)、英語(4)、社会(2)、総合(2)、部活動(1)、数学(1)、保健体育(1)、美術(2)、技術家庭(1)、進路指導(1)、生徒指導(1)といった個人実践レポートが寄せられた。(校内研究集録No. 36に併載した)

IV 実践内容

平成17年度 新聞活用教育(NIE)公開授業実 <美術科>
 ○美術科テーマ「対象のもつよさや美しさに学び、自分らしい表現を追求する美術学習のあり方」<5年次>
 美術の授業における新聞活用方法の模索 ～新聞を使った鑑賞学習の導入～ 2年次

日時 平成17年9月16日(金) 第5校時
 会場 コンピュータ室
 授業学級 2年7組 男子21名、女子18名、計39名
 授業者 吉池 光則教諭

1. 単元名「アートで一息 ― 水墨画の世界(雪舟に学ぶ) ―」 (2年 8時間中の第5時)
2. 題材設定の理由

昨年に引き続き、表現力に加え、先ず見て感じ取る鑑賞教育の充実を目指して、2学年ではバーチャルではあるが、恒例の「インターネットで美術館訪問」を一学期中に設定し、主体的に興味関心のある作家や世界各国の美術館を訪ね、作品のよさを感じ取ってきた。本来であれば地域にある美術館などを活用し、本物の収蔵作品を鑑賞したいところだが、統一性のある時間割の性格上、どのクラスも校地外へ出かけられるという状況にはない。今回は、技法理解的制作を単元前段で行い、その自らの作品を振り返る視点を美術史の中に得ると共に、美術史上の水墨画の代表的な作家作品についての基本的知識を定着させたい。そのために、新聞記事を窓口として、インターネットを活用して、水墨画の美術史上における代表的作品について、主体的に調査、鑑賞する姿が期待できると考え、本題材を設定した。

3. 生徒の実態

クラス替えがあった4月当初、朝、新聞を読む習慣がついているかなどの実態を把握した際には、40名中、毎朝必ず新聞に目を通して来るという生徒は1人、テレビでニュース情報を得ているという生徒が33名という実態にあった。新聞活用については、生徒が主体的に新聞情報を求めていくという環境や、新聞情報が身近にあるという生活環境を構築していく必要があるだろう。落ち着いた中での読書を好む生徒もいるが、身体を動かして活動することを好む生徒が多く、どちらかと言えば行動的である。美術学習においても、前単元「インターネットで美術館訪問」ではコンピュータを活用した美術作品鑑賞に興味をもった生徒達であり、現在取り組んでいる「アートで一息」においては、抽象画に関心を寄せながら、墨を用いて描く水墨画の基礎技法を描画体験を通して学んでいる。「美術の時間に水墨画をやった。いろいろ描けたし楽しかったのでよかった。」(OR) 墨を吹き流したり、紙で擦ったりという描画体験をした日の男子生徒の日記である。制作の道筋や解決の方法が見えてくると、より主体的に制作、行動できるところが見られる。

私は新聞といえば、いつもテレビ欄しか見ないので、しっかり読むのは久しぶりでした。もっとこれからは、いっぱい社会の事を知るために、いっぱい新聞を読もうと思いました。(WA)

4. 目標

- (1) 単元目標「アートで一息 ― 水墨画の世界(雪舟に学ぶ) ―」

表現：ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、創造や感情など心の世界をスケッチにあらわすこと。
 ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心をもち、自分の表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること。
 鑑賞：ア 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを理解し見方を深め、作品に対する自分の価値意識をもって批評し合い、よさや美しさを幅広く味わうこと。

- (2) つける力

①日本の美術の概括的な変遷と水墨画の特質や代表的な作家作品とその特徴的な要素を知り、日本の美術や文化と伝統に対する理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めることができる。

- ②代表的な水墨画作品に用いられた技法や考え方の特徴を理解し表現の多様性に気づくことができる。
- ③水墨画の技法に関心を持ち、自分の表現意図に合う方法を模索して創造的に表現できる。
- ④自ら制作した作品を見つめ直し、また相互に鑑賞しあい、互いの表現のよさや個性を尊重し意見交換して、作品から得た感動を伝達していくことができる。

5. 鑑賞題材の評価規準観点

(1) 育てたい能力と態度

- ① 多くの作品を見たいと思う美術への関心
- ② 美術作品の鑑賞に親しむ態度
- ③ 自分の感じ方を大切にして、よさを確かめようとする能力
- ④ 文化遺産について理解を深め、特色や歴史的背景について考える能力
- ⑤ 作者の気持ちを表し方などから洞察する能力
- ⑥ 感じたことを人に伝え仲間と進んで交流をもとうとする態度

(2) 鑑賞力：潜在的についていく力として観察、凝視、鑑賞といった「ものを見る目」の質的な高まり。以下の①～⑤の段階を想定した。

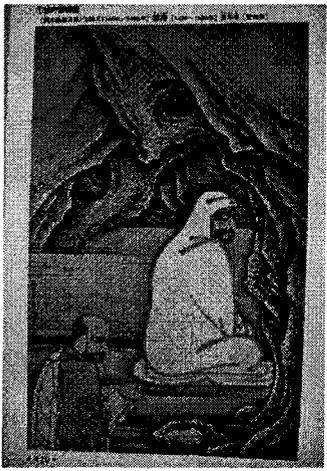
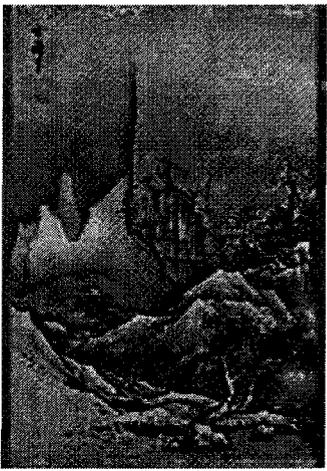
- ① 作品を見て刺激され、好き嫌いや連想から判断
- ② 対象の美しさや技量に注目する
- ③ 作品に表れた作者の体験や感情を読み取る
- ④ 作品の背後にある歴史的、社会的状況の分析、その意味の理解、その様式の理解
- ⑤ 自分自身の体験と重ね合わせて価値付けをする

6. 教材研究

(1) 美術関連の新聞記事

- ① 雪舟の現風景 愛知県常滑市斎年寺 2001年12月23日 毎日新聞
- ② 雪舟 平明さの先駆け 2005年7月26日 読売新聞

(2) 関係図版

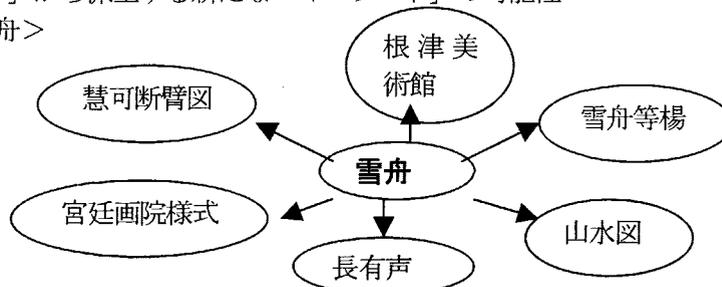
 <p>① 美術資料P110 図版 慧可断臂图 斎年寺所蔵→所蔵先変更</p>	 <p>②雪舟平明さの先駆け 2005年7月26日 読売新聞</p>	 <p>③秋冬山水图冬景图 東京国立博物館所蔵</p>
--	--	--

(3) 新聞記事から抽出した「検索キーワード」

- ・水墨画／室町時代／雪舟等楊／根津美術館／明代絵画と雪舟展／慧可断臂图／長有声／李在／画院画家
山水图／宫廷画院様式／呉派文人画／沈周／斎年寺／重要文化財／国宝

(4) 「検索キーワード」から派生する新たな「キーワード」の可能性

例 <雪舟>



(5) インターネットを活用した検索キーワードによる美術情報へのアクセス

インターネット活用はほとんどの生徒が経験済みである。とりわけ「検索」には、「ヤフー」検索エンジンを使用する生徒が多いだろう。以下は(3)で挙げた検索キーワードをもとに、「グーグル(日本語)」にて検索した情報の数である。これでは情報の山というのか海の中にあり、雪舟→雪舟等楊といった絞り込み検索が必要である。

- ① 国宝 の検索結果 約 2,610,000 件
- ② 雪舟 の検索結果 約 136,000 件
- ③ 雪舟等楊 の検索結果 約 516 件
- ④ 齋念寺 の検索結果 約 6 件
- ⑤ 破墨山水図 の検索結果 約 410 件
- ⑥ 慧可断臂図 の検索結果 約 464 件 後略

(6) 必修閲覧WEB

- ① 文化遺産オンライン(文化庁/総務省) <http://bunka.nii.ac.jp/jp/index.html>

平成15年4月、文化庁は総務省と連携しながら、国や地方の有形・無形の文化遺産に関する情報を積極的に公開することなどを目的とした「文化遺産オンライン構想」を推進。文化遺産の総覧をインターネット上で実現するため、国は博物館・美術館・関係団体等における電子資料集成(デジタルアーカイブ)を促すとともに、インターネット上における情報の入り口となる文化遺産の電子情報広場(ポータルサイト)として文化遺産オンラインの仕組みを開拓し、平成16年4月から一般公開運用。

- ② e 国宝 www.emuseum.jp/

このサイトでは、東京・京都・奈良の国立博物館が所蔵する国宝・重要文化財の精細な画像を閲覧可。代表画像をクリックすると各国宝・重要文化財の作品個別ページに進める。

- 秋冬山水図 <http://www.emuseum.jp/cgi/pkihon.cgi?SyoID=2&ID=w055&SubID=s000>

- ③ 文化庁報道発表資料 www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04040201.htm

○重要文化財を国宝に指定

紙本墨画淡彩慧可断臂図(しほんぼくがたんさいえかだんびず) 雪舟筆(せっしゅうひつ) 七十七歳の款記(かんき)がある 一幅。 款記から、雪舟が明応五年(1496)に77歳で制作したことがわかる、禅宗祖师図の大作である。簡潔明快な構成でありながら、厳しい顔貌表現と達磨の体躯の大胆な形態、さらには覆い被さるような岩壁の量塊感が異様なまでの緊迫感を生んでおり、日本絵画史上迫力ある人物画のひとつである。我が国の絵画史上最大の巨匠で、後世に絶大な影響をおよぼした雪舟の人物画の代表作であり、国宝にふさわしい傑作である。(室町時代)2004年3月19日国宝・重要文化財(美術工芸品)の指定

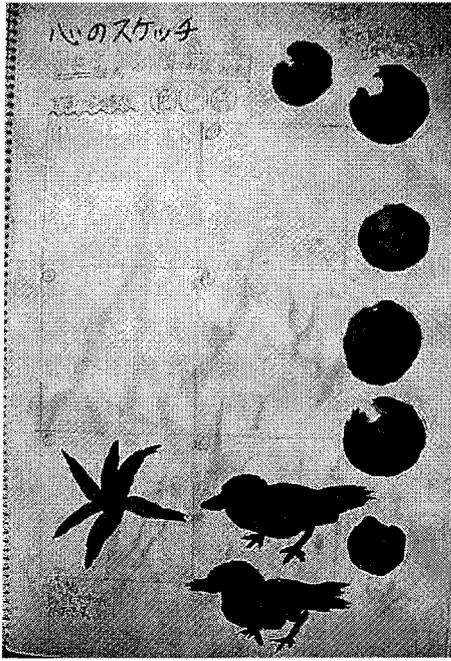
(7) 雪舟等楊の年表 (<http://www.ibara.ne.jp/~chogenji/sub3.html>)

年代 年齢 内容

1420	1	備中赤浜に生まれる
1430頃	11	相国寺に入り春林周藤に仕える
1464頃	45	「周防山口」の雲谷庵に住む(こう之恵鳳、雲谷庵を訪ねる)
1467	48	遣明船で、明に渡る。天童山で首座の位をうける。礼部院の壁画を描く
1469	50	明の寧波より九州博多に帰国
1471	52	「傲夏珪山水図」を描き、弟子小蔵主にあたえる
1474	55	「山水小巻」を描き、弟子の等悦にあたえる。
1476	57	豊後大分に住み、天開図画楼をいとなむ。「鎮田滝図」を描く
1479	60	石見益田で「益田兼堯像」を描く
1486	67	「山水長巻」を描く
1490	71	「自画像」を描き、弟子等観に与える
1495	76	「破墨山水図」を描き、弟子宗淵に与える
1506	87	雪舟、没

7. 単元展開

段階	時間	学習活動	◇指導・●評価
発想	0.5	○抽象画について理解し、言葉からの連想を簡	◇具象画と抽象画の違いを具体作品を通して理解させる。「スピード」や「光」といった視覚化されにくい単語をもとに、絵に表してみるよう促す。

		単な絵に表してみる。	●抽象画の意味を理解し、体験的に描く事ができたか。
構 想	3	○水墨画の表現技法を模写や技法体験を通して理解する。	◇精神性に重きを置いた水墨画を知り、美術資料掲載の「速水御舟」作品の鑑賞、模写を通して基本的な描法を確認していく。 ●墨の濃淡や線の強弱を意識した模写ができ、基本技法が理解できたか。 ◇陰影のついた真球をいくつも描き、墨の濃淡の調子をつかませる。 ●複数の描画練習を通して立体感のある球体が描けたか。 ◇吹き流しや垂らし込みの技法体験を促す。 ●筆以外の描画方法やそのよさを体験的に理解できたか。
			
鑑 賞	1	○美術に関する新聞記事を基に、検索用のキーワードを洗い出し、調査対象作品や作家、美術館を決め、主として「雪舟」の作品鑑賞を行なう。	◇提示した新聞記事のなかから、知っていることなどを自由に発表させる。 ・記事中の美術関連用語（キーワード）を確認していく。 ●インターネットを活用して検索するために新聞記事のなかに見られるキーワードを決め出すことができたか。 ◇決定したキーワードをもとに、鑑賞素材を見つけ出すインターネット検索方法を確認し、各自の調査活動を促す。 ●鑑賞題材について、自ら情報収集し、作者や作品のよさを感じとることができたか。 ◇関心をもった作者と作品についての継続的な調査を促す。 ・検索キーワードを複数用いながら鑑賞素材を収集して、調査対象作品が表現のよさや美しさなど新たな発見が得られるようにする。 ●対象作家の生涯や美術作品についてのエピソードなどを調べることを通して作家の考え方や作品のよさを感じ得ることができたか。 ・美術館公式HPをはじめとして作品や作家情報掲載のHP閲覧を通して作家のその他の作品や技法、エピソード等から感じ取ったことについてまとめる
制 作	3	○水墨画の課題制作や自由制作を行なう。	◇墨を用いて、自分の表したい雰囲気や構図や墨の濃淡を考え、思い切って描かせる。 ●画面全体の調和や筆遣い、濃淡のよさを意識しながら描いた作品ができたか。
ま と め	0.5	○お互いの作品を鑑賞し、作品に表れた友達の個性や作品のよさを感じとる。	◇各自が互いに友達の作品を鑑賞し、そのよさを付箋にメモし意見交換するよう促す。 ●お互いの「作品」を鑑賞し、友達の個性や作品のよさを感じとることができたか。

8. 本時案

(1) 主眼

水墨画の基本的な描画方法を学習してきた生徒が、代表的な画家についての知識を獲得していく場面で、新聞の美術関連記事中のキーワードに着目させ、インターネットを用いて作者「雪舟」や「秋冬山水図」等の作品関連情報を閲覧、鑑賞することを通して、水墨画をはじめとする日本の美術作品や文化遺産などに親しみをもち、関心を深めることができる。

(2) 本時の位置 全8時間中第5時

(3) 指導上の留意点

- ① 態度：コンピュータ機器活用及びインターネット活用のマナーを守る。個々の閲覧・鑑賞状況を見極め必要に応じて机間指導で個別に支援する。
- ② 表現技能：情報の取得について、HP記載事項をそのままコピーして自らの感想とすることのないようにする。機械操作上の躓きに即応し、可能な限りの閲覧、鑑賞時間を確保する。

(4) 準備品 作家作品集（全集より抜粋）、インターネット接続可能なコンピュータ、学習カード

(5) 展開

過程	学習活動	予想される生徒の反応や意識の流れ	・指導 ○評価	時間
課題設定し	1 検索キーワードを確認し、インターネット検索の手順を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学習課題： 雪舟について調べよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ねがい：この作品についていっぱい知りたいな。早速調べたい！</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あの作品、知ってる、長野冬季オリンピックの公式ポスターの絵だ。 ・国立博物館のHPを訪ねて、よく見てみたいな。 ・どれについて調べようかな・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をもとにキーワード決定を促す。 ○検索活動に際して自分の課題把握ができたか。 	5
追究し	2 各自決定した検索キーワードをもとに閲覧、鑑賞をはじめめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">新たな問い→学習問題：この作品はどうやって描かれたものなんだろう。／他にどんな作品があるんだろう。／この作品の作者はどんな人なんだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・作品名や美術館、博物館名を基に調べていくと良さそうだ。 ・集中して検索・閲覧始める → 閲覧のきっかけがつかめない ・探究対象が明確になり集中 ← → ただ何となく閲覧している。 <p>*机間指導、個別のつまづきを把握、支援。閲覧対象への共感。 *慧可断臂図 及び 秋冬山水図冬景図の閲覧状況把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・決定したキーワードをもとに検索を促す。 ○作家や作品の関連情報を検索し、美術作品や作者などについて新たな知識を得ることができたか。 	38
まとめ	3 本時の活動を振り返り、調査し鑑賞した活動について感想を発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">鑑賞した作品について振り返ってみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> *学習カードのメモをもとに鑑賞を振り返る。(本時の自己評価) ・雪舟のその他の作品について興味がわいてきました。 ・この他の作家や作品について知りたくなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カード感想記入 ○鑑賞活動を通して美術作品や文化遺産などに親しみをもち関心を深めることができたか。 	7

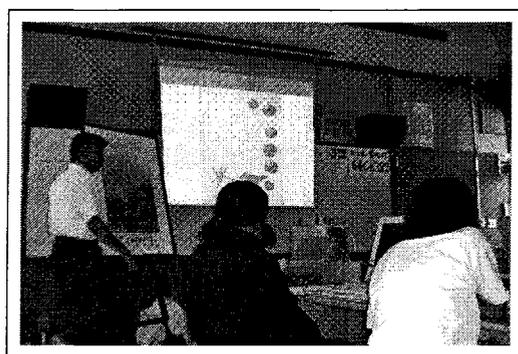
9 実証の観点

- (1) 新聞記事中の美術関連記事をもとに、検索キーワードを決め出して、インターネットで検索させたことは、作家の情報を得たり、新たな作品と出会ったりすることで、美術作品や文化遺産などに親しみをもち関心を深めるのに有効であったか。
- (2) e国宝をはじめとする複数のWEBを提示したことは、多岐に分散する雪舟の作品を追求をする鑑賞学習としてふさわしいものであったか。

10 座席表 略

11. 授業の実際と考察

美術の時間に雪舟についていろいろやった。自分なりに調べてまとめることができたのでよかった。(OR)美術の時間にノルウェーの人が授業を見に来ました。その他にも新聞記者の人もいました。だれが撮ったのか覚えてないけど、だれかに僕が写真を撮られた気がしました。近くで僕の方に向かってフラッシュが光ったから・・・僕は新聞に載るのかなあーと思い少しワクワクしました。(MD)ノルウェー新聞協会NIEマネージャー、ヤン・スティーンさんが授業を参観されました。全体での導入を経て、個別に追究を行ないました。以下に学習カードの項立てに従って、生徒の記入事例をもとに考察したい。



(1) 学習目標

いい情報を得る(S)、雪舟の水墨画について知らなかった事など発見する(T)、雪舟のいろんな作品を見る(K) なるべく沢山のことを調べる(H)、雪舟等楊の作品をたくさん探す(K)、雪舟のいろいろな事を沢山見つける

(U)、水墨画に興味を持つ(S)、雪舟のいろんな作品を見つけて調べる(O)

考察1：学習課題がそれぞれにすわったが、水墨画というジャンルのなものから、作者としての雪舟という人物について、さらには雪舟が残した作品そのものについて等、追究における幅の広がりが出ている。新聞記事を中心に、生徒の好奇心に寄り添って多方面からの、自主追究が促せた。

(2) 新聞記事中のキーワード

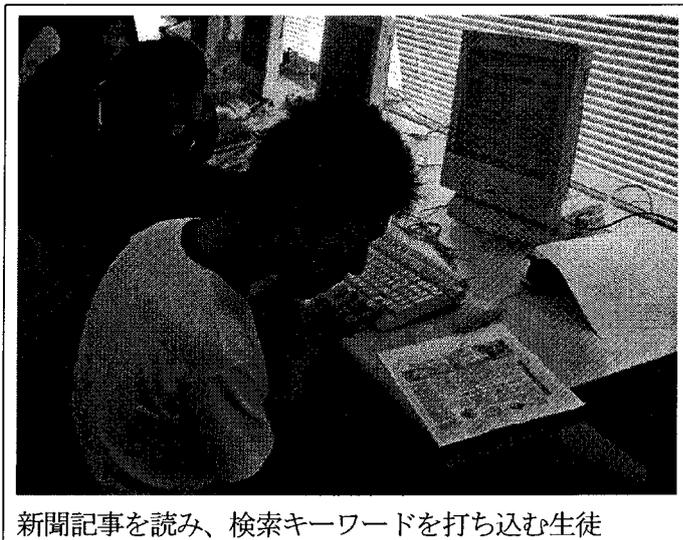
雪舟/国宝/慧可断臂図/天橋立図/雪舟等楊/文化遺産/文化/陳楠浮浪図/達磨/水墨画/大和絵

考察2：あらためて新聞記事を読むことで、学習追究のキーワードが抽出された。新聞記事中には、さりげなく学習用語や習得すべき固有名詞などが散りばめられている。カラーマーカーなど手にして読み込むという学習が大事になってくるとともに、そこから鍵となる語句を抜き出す、選び出すという学習が必要になってくる。インターネット検索との併用でこれらの語句が端緒となって、追究対象の探究を深める事になったが、当然のごとく情報量も多く間口が広がりすぎる難点もある。

(3) 追究の対象とする作品名や事実

慧可断臂図/破墨山水図/秋冬山水図/花鳥図 /達磨

考察3：具体的な作品を一つ、二つと決めだして新たな知識をウェブ上に求めていく。雪舟作品の本物、実物を自らの全ての感覚を使って鑑賞することは理想的だが、こういった鑑賞も大切な体験になると思う。とりわけ、信濃毎日新聞NIE事務局長横内氏の協力により、雪舟の秋冬山水図の冬景図を基にした長野冬季オリンピックの公式ポスターをお借りする事ができ、授業の全体導入部で鑑賞することができたことは、雪舟作品の鑑賞意欲を高めることにつながったと思う。秋冬山水図を追究の対象に選んだ生徒が多かったのはこの影響があるろう。



新聞記事を読み、検索キーワードを打ち込む生徒

(4) 作品の事実や発見した事や鑑賞学習の記録メモ

- ・ 雪舟が描いた「天橋立図」という絵画を見ました。天橋立という所に行った事があるのでびっくりしました。(Y)
- ・ 秋冬山水図には秋と冬の2つがある。つまり2つで一つの作品なのか?(S)
- ・ あのポスターは秋冬山水図だった。(F)
- ・ 冬と思う絵には、名が入っているけど、秋の方には入っていなかった。冬・人がいた。舟が一双あった。秋・絵の色が濃い、後ろには薄っすらと山が描いてあった。全体的に近くのものなどは濃く遠いものは薄く描かれていた。細かい所まで描いてあった。(S)
- ・ 慧可は、自ら左手を切断して、熱意を示している絵。迫りに満ちている!!(M)

考察4：ウェブ上の情報の書き写しが多くなりがちである。感動も他人の感動記事に感動してしまうようなことにもなりかねない。情報を咀嚼(そしゃく)して、または複数の情報のなかから確かな情報を得て、それに対して感じ取った事、疑問に思ったことをメモするということが大切であると考えたが、いわば「板書」を書き写しているような生徒が大勢いたことは、残念であった。

(5) 鑑賞活動の自己評価 (該当記号に○)

- A：目標を持って作品を見て、自分なりに多数の発見があった。 12人
- B：目標を持って作品を見つめることができた。 9人
- C：なんとなく見ていた。 1人

考察5：この欄は未記入者が多く、学習の最後に自らの学習を振り返る評価活動が十分に定着しているとは言えない。A、B評価合計で21人、いずれにしても自分なりに課題をもって学習を行ない、この鑑賞活動に意義があったとみたい。C評価とした生徒は男子生徒一人であった。「雪舟は等楊ということがわかった。いろんな水墨画を描いているということがわかった。」と学んだ事として記録している。なんとなくの学習から必要感のある追究とするためには、なんらかの課題を教師が設定する必要もあるだろう。しかし多くは、自らの学習意欲に支えられて探究した時間だったと考えられる。

(6) 作品から学んだ事や作者についての感想

- ・ メモはあまり書けなかったけど、雪舟についていろいろ分かってよかったです。小さい頃から、絵を描くことが好きだったんだなと思いました。(M)
- ・ 自分なりにいっぱい書けた。日本のどんな画家よりもずば抜けた個性で描いたことは歴史的にすごいなと思った。(T)
- ・ 今まで私は雪舟って「秋冬山水図」のような風景しか描かないのかな?とっていたけど、今日「慧可断臂図」を見て違うんだなあ・・・と思いました。すごく怖い絵だと思ったけど、何か目が離せない感じがしました。他にも「天橋立図」という作品がすごくきれいだなと思いました。雪舟はすごい人なんだなあという事も感じました。(M)
- ・ 雪舟は日本の水墨画を大成し、「画聖」と称えられていたようです。国宝などになっている作品も多く、驚きました。今まで雪舟という水墨画しか出てこなかったけれど、一つくらいは作品名を言えるようにもなりたいです。作品もいろいろ見られてよかったです。(M)
- ・ 水墨画の作品はあまり知らなかったけど今日見てすごいなあと思いました。「秋冬山水図」は何回かみたことがあって知っていました。けど2枚いっしょになっている事は知らなかったのでビックリしました。作品を大きく見れて良かったです。(W)
- ・ 雪舟は小さい頃から絵がうまかったらしい。やっぱ小さい頃からうまかったからこそ、明国へ行って水墨画を習ったんだと思った。行った事がすごい。いっぱい雪舟の作品が見れて良かったです。(W)
- ・ 「秋冬山水図」の作品は、とっても強調性などがあり、本当にすごいことがわかりました。本当の作品を見て感動しました。(O)
- ・ 作品は軽い気持ちで描いているのではなく、深い意味があって描かれているということがわかった。作品についてよくわかってよかった。(O)
- ・ 雪舟の「花鳥図」と「山水図」を見た。「花鳥図」は、鳥の動きが印象に残った。あまり目に付かない背景にも、注目して見たら、すごく細かく描かれていてびっくりした。水墨画は簡単そうに見えるけど墨の濃さ、薄さなどを調節しなきゃいけないから、難しいんだと思った。(S)
- ・ 近くのは濃く、遠くのは薄く描くこと。墨の濃さでいろいろな表現ができていた。(S)
- ・ 全ての絵から特別なオーラを感じた。(K)
- ・ 慧可断臂図はどんなことを描いていたのかということが分かった。調べている時に出て来た登場人物みたいな人を調べられて良かった。(H)
- ・ 墨しか使っていない絵だけど、色を使っているくらいインパクトがあった。(K)
- ・ 雪舟は孤独の中でも、自分で水墨画の道を目指し、中国で水墨画を学び日本で一流になったことがわかった。禅僧であった雪舟は妻も子もないこと、芸術家に妻や子がいないことはめずらしくないことがわかった。雪舟についてよく学べた。雪舟の生き方に感動的でした。(K)
- ・ 検索してもなかなか出てこなかったの、大変だったけど上記に書いた「秋冬山水図」の秋景について絵の描き方がよくわかりました。今まで教科書でしか見たことがなかったので、詳しく調べられたので良かったです。(M)
- ・ 「雪舟がいつこの世を去ったのか定かではない。」というのが気になり、うつして見ました。とにかく勉強になった。(N)
- ・ 小さいころから絵が好きで、絵に熱中していたことがスゴイ!!涙で絵を描いたりしているというのは、本当に絵が好きなんだなあと感じた。夢を持ち続けている雪舟がすごい!夢をかなえた、実現したことは、生涯の誇りだと思う。(M)
- ・ 雪舟の作品は、黒一色でもどこかカラフルな感じのするものが多かった。特に、四季花鳥図です。この作品は雪舟が描いたと言われていますが、良く分かっていません。でも、花や鳥に色がつき、まるで生きているみたいに見えました。そういうところがすごいと思いました。(O)



ウェブ上の秋景図をコンピュータ画面上に出して鑑賞する生徒

考察6 : 授業の感想からは、作品の素晴らしさばかりでなく、作者である雪舟の人物像についても感動していることが認められる。つける力の①、②の達成状況は概ね果たせていると言えそうだ。一方で、雪舟以外、

水墨画以外の情報を積極的に得ようとして、日本美術の流れなどを俯瞰的に見つめるには別の手立てが必要だろう。収束的な学習ではなく、学びが更に広がっていく流れが大切と考える。

1 2. 研究の成果と更に究明したいこと

(1) 研究の成果

- ① 新聞記事中の美術用語、作家や作品等の固有名詞は中学生にとっても既有的のものであることが多い。しかし、読み流してしまえば表層的な情報の取得のみで終わってしまったり、わかったつもりになってしまったりすることも多い。新聞には、時事的な情報、美術的には展覧会情報やそれに付随した批評等が掲載されていることもあり、それら用語や固有名詞に再着目させて、それらを糸口に主体的な鑑賞学習を提供することは、今回の「雪舟」や「水墨画」に限らず設定できそうである。
- ② 「アートで一息 水墨画の世界」の表現活動に還元する鑑賞活動として、鑑賞から造形活動、表現といった一連の展開が確認できた。こういった学習の流れの中で「新聞」を有効に、また適時性をもって位置付けるためには、常に新聞情報に敏感である必要がある。今回の展開では、雪舟の没後500年という話題性もあって、学習の端緒となる記事を用いることができた。教科書に掲載されているものをただ単に鑑賞する学習と異なり、「新聞」に掲載されたような時事的な話題性は、学習の意欲喚起にも重要な要素だろう。
- ③ 「新聞」記事の作品情報、記事中に登場した作品の複製品（あるいは実物）、そしてインターネット情報と様々な情報媒体を通して作品を鑑賞することで、独創的な見方、考え方を助長したり、自己の内面を見つめさせたりすることも可能であろう。その後の水墨画制作体験では、感情の解放や心理的な側面から迫る美術表現のあり方、感性や情操といった生徒の心情的な育ちに寄り添った学習展開を「アートで一息」の表現を通して実践、確認できた。

(2) さらに究明したいこと

- ① 新聞情報を活用した、鑑賞の場のより適切な設定の仕方。ひとり一人の生徒が語る美の豊かさを共感的に味わうための課題の設定の仕方。さらに、そこで感受したよさや美しさを自らの表現に生かしていくための単元展開のあり方。
- ② 新聞記事の読み取り方、キーワード選択は、個々の生徒に委ねられている。個別に収集した学習素材をもとに学習を進める中で、追究の中で得る情報、知識も個々に異なってくるが、個別の探究から共同鑑賞的な学習形態へとつなげていくことも大事に考えたい。
- ③ 新聞には展覧会情報等、美術関連記事も多数掲載されている。生涯にわたって目を通すであろう「新聞」を通した鑑賞教育の充実を期待したい。やはりそのためには、義務教育段階における必修美術の時間に、意義ある鑑賞学習を行う事が基盤かと思われる。別の題材での実践も、今後模索していきたい。

VII おわりに (2年次を終えた成果と課題)

- 1 一年次に引き続き、分野や教科を限定せずに、教職員一人一実践を提案し全校研究体制で新聞を活用しようとして取り組めた事は、全職員によるNIE実践の可能性、多様な教科・領域での実践活用の可能性を見出す上でも意義があった。
- 2 広く8紙を配達いただいたが、記事内容に踏み込んで比較検討する素材の教材化の時間はほとんど無い状況にあった。今後は授業での活用とともに、新聞に主体的に関わっていける環境、学習の流れを模索したい。

2年間の新聞活用教育研究については、昨年度の6ヵ月間、そして今年度6月からの6ヵ月間、実質12ヵ月で大いに関わり、関心をもって進めることができました。新聞を提供いただけたことに感謝いたします。さて県NIE推進協議会会長の濫澤先生は、新聞活用教育は「家庭を巻き込んだ展開に」と提唱されています。私たちが実践してきたことは、授業場面での供与注入型の新聞記事提示の割合が多かったかと思います。3年次研究はありませんが、次の段階は生徒が、主体的に新聞情報に関わり、考え、発信していくという姿が求められていく段階かと思えます。

<参考文献・ホームページ>* 新聞及び引用webについては教材研究ページ記載。

- [1]: 長野県教育委員会 「長野県中学校教育課程学習指導手引書」(2001)
- [2]: 文部省 「中学校学習指導要領解説 美術編」(開隆堂)(1999)
- [3]: 長野市教育委員会 「長野市教育課程指導計画 美術編」(2002)
- [4]: 京都芸大美術教育研究会他 「美術資料 長野県中学校美術教育連盟編」(秀学社)(2002)
- [5]: 立花 隆 「インターネットはグローバル・ブレイン」(講談社)(1997)
- [6]: 長野県新聞活用教育推進協議会 「NIE長野県実践報告書」(2004)